●奨励賞〔論文概要紹介〕

「食育科」の設定と展開

愛知県西尾市立寺津小学校　高橋正治（たかはししょうじ）

【実践の内容】

平成11年度から小学校で取り組んできた「食の指導」を、家庭や地域の要請を受けて、平成16年度からは小中一貫教育の柱として「食育科」を設定し実践してきた。

【論文内容の紹介】

1. 論文の概要

平成８年度から３年間、アイガモ農法による有機米栽培やEM菌による給食残滓処理などを取り入れた「環境教育」に取り組んできたが、給食残滓は１日平均10kgほどあり減少しなかった。また、３世代同居が多い落ち着いた学区であるにもかかわらず、朝食に親の顔が見えない世帯は、全国と同程度の26%にも及んでいた。そこで、平成11年度から「食の指導」に全力で取り組むこととなった。

５年間の実践の成果が家庭や地域から評価され、「中学校でも実践してほしい」という強い要請が寄せられた。そこで、平成16年度からは小中一貫教育の柱として「食育科」を設定し、９カ年のカリキュラムを作成し実践してきた。その結果、児童生徒に明らかな変容が見られるようになった。

2. 食育科の目標

〔育みたい心〕
・人や自然に対する感謝の心
・自分自身の健康を守り、命を大切にする心
・日本と世界の食文化を大切にする心
〔培いたい実践力〕
・食生活に関する様々な情報に関心をもち、食に対して適切に判断できる力
・調理の技能を身につけ、生涯にわたって健康的な生活が営める実践的力
〔身につけたい知識・理解〕
・健康的な食生活を送るために必要な食品や栄養に関する基礎的な知識
・日本型食生活の大切さと、食を通した日本と世界との結びつきへの理解

3. 食育科の内容

学習の系統性を図るために、内容領域を「味覚」「食品・栄養」「栽培・調理・食品選択」「食文化・感謝」の４領域とした。

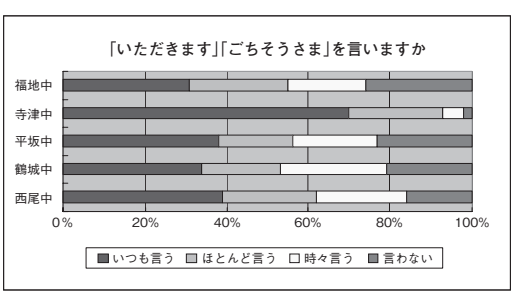
4. 配当時数

小１から中１までは週２時間、中２・３は週１時間を設定した。

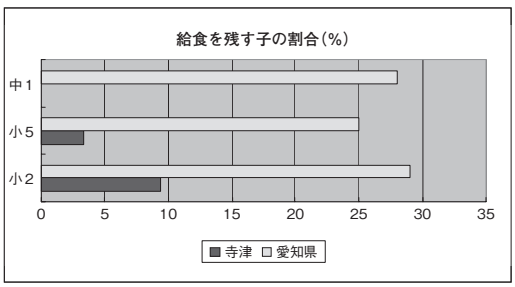
5. 実践の成果

①「心」の変容

平成19年度西尾市栄養職員部会調査結果から寺中生の確かな変容がわかる。



②「実践力」の変容

19年度県校長会の調査結果である。中学校は給食残滓0を達成、小学校は平均1kg未満となった。

また、朝食欠食者は、中学校で0％、小学校で1％となった。